



# からしだね

キリストの受難  
カトリック池田教会

2015年  
7月号 (507号)

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父  
協力司祭：デニス・マックゴワン神父  
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624  
URL(ホームページ)：  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



タボル山 主の変容教会 (イスラエル)

巻頭言 .....	2	カリスマ刷新の世界司祭黙想会 .....	3
7月のガラスケースの言葉 .....	4	カナの会より .....	4
教会の桜と樹木屋さん .....	5	宝塚黙想の家から .....	6
前田万葉大司教講演 .....	6		

表紙写真 撮影：弓削 節子

※ 聖堂入口で配布しているものからの抜粋版です。  
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください。

## 巻頭言

## 3匹の子豚とサマリア人

デニス神父

3匹の子豚の話が変わってきたようです。そうすると、非キリスト教的な結論になるかもしれません。

子供たちがいま聞いているのは「3匹の子豚が冒険の旅に出発しました。1匹はなまけ者だからワラの家を造りました。もう1匹もなまけ者だから木の家を造りました。しかし、3匹目は勤勉だからレンガの家を造りました。それで狼がやってくると、簡単にワラと木の家は吹き飛ばされて、2匹の子豚は食べられてしまいました。しかしレンガの家は丈夫だから、狼は吹っ飛ばすことができず、3匹目は無事だったのです。」

この話から出てくる当然の結論は、「2匹はなまけ者だから食べられてあたりまえで、3匹目に——また現代の困っている人びとの場合で言えば——わたしに責任はない」

しかし、昔のグリム物語によれば、おかあさんが「家に食べ物はない。だから自分で探しにいきなさい」と3匹の子豚を追い出すのです。すると、1匹はワラを持っている人に会ったので、ワラをもらってワラの家を造ります。木を持っている人に会ったもう1匹は、木の家を造ります。そして3匹目はレンガを持っている人に会うのでレンガの家を造ります。それで狼が来ると、その子豚だけが助かるというわけです。

なまけ者だからとか、勤勉だからというのは理由にはなっていません。

おなじように、ネパールの地震のとき、それにアジアとアフリカの何千、何万のボートピープル、あるいは東北の地震や津波などで苦しむ人びとは、なまけ者だから苦しんでいるのではない。サマリア人はここで言うでしょう。——「おなじ人間だから助けてあげないといけない。できるだけのことをしてあげなければならない」と。

(ルカ 10:25~37)

旅の途中で飲むために持っていたワインや、パンを焼くために持っていたオリーブは最高の手当てではないかもしれないし、<sup>ろば</sup>驢馬の乗り物や宿屋も同じことです。2デナリオだけしか持っていなかったかもしれません。しかし、できるだけのことをしてくれました。

最近、新聞に記事がのりました。高松さんという人は宇宙ステーションへの旅行のために準備しているそうです。9月1日から9月11日まででコストは8千万ドル。サマリア人が聞いていると想像しましょう。きっと言うでしょう。「どこかに、例えばお医者さんとして働いた御受難会のフレッシュ神父さまがハイチで子供の病院を造ったように、同じ金額で貧しい子供たちのために病院を造りませんか？」

## カリスマ刷新の世界司祭黙想会

畠 基幸神父

先週 み心の祝日の日に ローマの司教座聖堂 聖ヨハネ ラテラン・バシリカでカリスマ刷新の世界司祭黙想会に与ってきました。教皇様とは午後4時から3時間半にわたって1時間のレクチャーと30分の質疑応答とミサがありました。

アジアの代表で 質問しました。

夜通し考えて 5つほどの質問の中からちゃんと英語らしくなった質問を選んで教皇様に質問しました。



“In the history of Japan, without the support of priests and religious, the lay people kept their faith for over 260 years. Holy Father, you praised the Christian history of Japan and the pastoral plan of the people which prepared them to withstand persecution by organizing programmes for baptism, catechecis and prayers. In this secularized and globalized society ,what can we learn from this history ? ”

「日本の歴史では、司祭の助けを受けることなく、信徒が260年以上もの間信仰を保ちました。教皇様は日本のキリスト者の歴史を讃えてくださいました。また、洗礼と要理と祈りのプログラムを定めることで、信徒が迫害に耐えうるよう準備した司牧プランを讃えてくださいました。しかし、現代の、世俗化しグローバル化した社会に生きる私たちは、その歴史から何を学ぶことができるのでしょうか。」

ちょうど高山右近の英語の広報記事を読んでいたのでも思い出して使わせて頂きました。神に感謝です。

その様子は You Tube に Pope Francis world retreat of priests at 2015 で検索できます。

わたしは 1時間50分くらいからの登場です。

質問の答えの後は、教皇様から祝福を受けました。そして、日本に来てくださいとお願いしました。

それ以上は言えませんでした。上がって顔が引きつりました。夜通し寝ずに準備したので

教皇様の答えの時は もう眠いのを我慢して頑張りました。



## 7月のガラスケースの言葉

神は喜んで与える者を愛する

コリントⅡ 9の7



カナの会より

**さわやかな出逢いのチャンス!**

男性 30 ~ 45歳 女性 20 ~ 35歳

《年齢など全然、こだわりません》

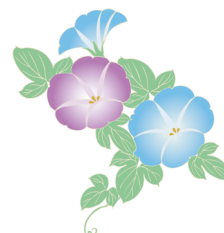
**夙川で「カナの会」がパーティー**

★日時 8月16日(日) 午後1:30~4:00

★場所 夙川教会会館3階 ★会費 1,000円

申し込みは7月10日までに委員へ

田中邦子・大山勝子



気軽な平服でご来場ください。

半パン、ランニング、ノースリーブ、ミニなどはご遠慮ください。



## 教会の桜と樹木医さん

北村多津子

40年前にデニス神父様が植えられた教会の桜の木が2本無くなりました。枯れた状態でしたが、切られた時、私はかなりショックでした。デニス神父様もショックなご様子でした。私の1度目の大ショックは、現在のお御堂が建った時にクリスマスツリーが無くなった時でした。これも神父様が植えられてクリスマスタイムになると、お一人で梯子に登られ、クリスマスライト（現在のキラキラのイルミネーションとは違う暖かい光）をつけられていた姿を今でもよく覚えています。そのクリスマスツリーの写真を撮りに遠方から来られたものです。桜の木がなくなって「十字架がよく見えるようになった！」と言う声もどこからか聞こえてきました。

私の三人の子供たちを含めてマリア幼稚園に通った多くの子供達は、満開の桜の花の下で入園式を迎えました。桜の木を伐採した日、偶然？・・・私は受付当番の日でした。いつもの通り朝10時前に教会に行くと丁度伐採の最中で、清水さんが来られていて「掃除ぐらい手伝え！」と言われました。私が「今日は受付当番！」・・・と言った時、チラッとキビキビと活発に動いていらっしやる素敵女性姿が見えました。私は初めて拝見した方だったので、どなたかと清水さんに尋ねましたら、樹木医さんで2年前からお世話になっているとの事でした。皆さんはご存知だったのかもしれませんが。「え～、樹木医さん?!」私は木や花が大好きで、花のためなら朝4時半に目が覚める人なのです。黙って咲いてくれる花やすっと立っている木々には天国の面影があります。世の中の進歩や流行に支配されることなく堂々と生き、他人に見られようと見られまいと精一杯そこで生きて、見事な、あるいは可憐な花を咲かせてくれる。「人間は動くが、もう動かなくてもいいという所に行くために動くのだ。そのためだけでも木々には天国の面影がある」とは、宇野重吉の詩の一部です。

尋ねたい事もあり、お声をかけさせていただき名刺をいただきました。

「原田基子」とおっしゃって私と同じ年齢の先生です。今まで私には樹木医さんは男性だという思い込みがあったので驚きと喜びで一杯でした。早速、先ず教会の桜が死んでしまった原因を尋ねました。すると木の中心部の二つの大きな穴を見せてくださり「虫が原因です。樹液の通る一番美味しいところを食べてしまったのですよ」と教えてくださいました。又、お御堂の前の2本の檜の木も虫に食べられていると言って、下の方の木が重なっている部分を細い枝でこすられました。するとすぐにアリがゾロゾロと出てきたのです。アリがいるという事は餌・・・つまり虫がいるということなのです。しかし、桜の木と檜の木は根の張り方が違うので、檜の木は未だ生き残れるのだそうです。私は先生の説明が興味深く、しかも納得できました。残念だけれど虫に食べられて死んでしまったのは自然の事なのです。デニス神父様にも拙い説明をしました。

原田先生は土壌を改良して新たに二本の桜の苗木を植えられます。その子たちが今の桜の大きさになるには又30～40年かかります。デニス神父様も私も、もうこの世にはいないでしょう。でもきっと天国の木々や花園の中で憩っていることと信じています。



## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

7月16日(木) 10:00 ～ 15:30 指導：山内十束神父

7月17日(金) 10:00 ～ 15:30 指導：山内十束神父



### ■ 週末黙想会

7月18日(土) 17:00 ～ 19日(日) 15:30 指導：山内十束神父

※ 8月「日帰り黙想会」「週末黙想会」は、ありません。

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。

☎0797(84)3111

## 前田万葉大司教講演

「戦後70年司教団メッセージ」

～その背景と期待～

日 時：2015年7月18日(土) 午後2時～4時

場 所：カトリック高槻教会 右近会館大ホール



(社会活動委員会)

## 編集後記

梅雨のわりにはあまり雨が降りませんが、降るときは恐ろしいほどです。昨年の今頃は皮膚科に通っていました。診察がおわる前に、呼ばれて待っていると内容が聞こえてきます。アトピー、害虫、アレルギーの患者さんが多かったです。先生が同じ事を言われていました。「梅雨が来るまえに部屋を乾燥させることが大切です。できればふすまをはずして、たんすも開けて、風を通しなさい。からっぽにできたら最高です。」と。

そして夏は肌にとっては最悪の季節らしいです。夏までに治らないと完治は難しいみたい。夏は現状維持が精一杯みたい。そして、アトピーの子どもさんに「掻いてはいけません、甘いもの、ジュース、アイスクリームはいけません。」なかなか守ることはむずかしいですね。私はしっかり守ってやせました。よかった。

<百日草>